令和6年度　市民の暮らしやすさ（Well-being）に関するアンケート調査結果について

「けせんぬま未来人口会議」で挙げられた、本市の人口減少に関する課題等に基づき、今後の施策や取組に反映するために行った市民アンケートです。

その中から、賃金、女性活躍、ジェンダーギャップ等に関する調査結果を抜粋し、掲示しています。

令和6年度　市民の暮らしやすさ（Well-being）に関するアンケート調査の実施概要

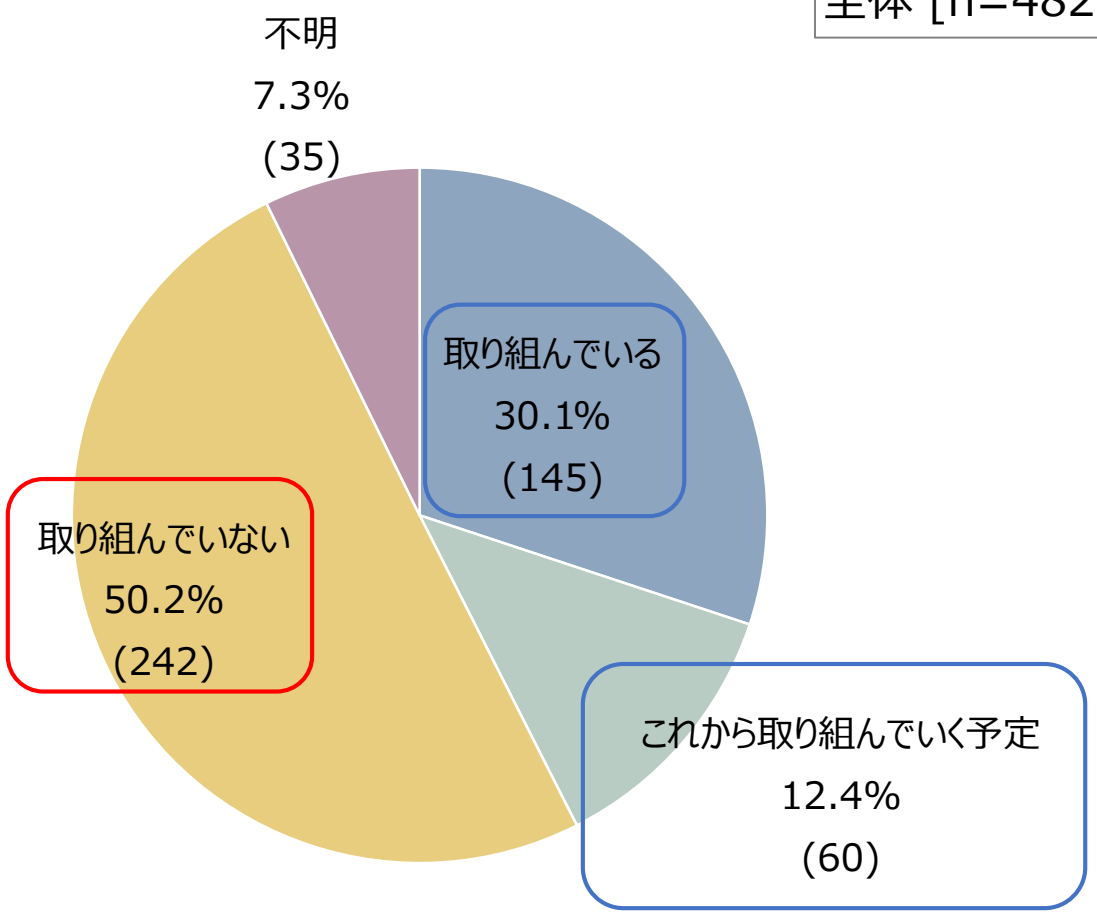
区分	一般	結婚・出産・子育て	高校２年生	事業所
対象・人数	18歳から65歳までの 市内在住者　2,000人	18歳から49歳までの 市内在住者　2,000人	市内の高校2年生 455人（全生徒）	市内事業所 1,476社
実施期間	令和６年８月上旬～ 令和６年８月下旬	令和６年８月上旬～ 令和６年８月下旬	令和６年７月下旬～ 令和６年８月下旬	令和６年８月上旬～ 令和６年８月下旬
配布・回収の方法	郵送による依頼・ webによる回収	郵送による依頼・ webによる回収	市内高校を通じた依頼・ webによる回収	郵送による配布・回収
回収状況	回答者　426人 回答率　21.3%	回答者　412人 回答率　20.6%	回答者　82人 回答率　18.0%	回答者　482事業所 回答率　32.7%
主な内容	・幸福度 ・ご自身について ・仕事と職場の状況・収入 ・ジェンダーギャップ ・魅力ある地域	・幸福度 ・ご自身について ・結婚について ・出産について ・子育てについて	・幸福度 ・ご自身について ・進路・しごと ・定住・交流（帰郷意向） ・魅力ある地域 ・将来の結婚・子育て観 ・ジェンダーギャップ ・その他	・企業・事業所の概要 ・今後の企業活動の展望 ・雇用・採用 ・就労環境 ・ワーク・ライフ・バランス ・女性活躍推進 ・ハラスメント防止等の取組

令和6年度事業所アンケートから 【女性活躍の取組】

問 「貴事業所では、女性活躍推進のために取り組んでいることはありますか。

- **「取り組んでいない」**が50.2%と最も多く、次いで**「取り組んでいる」**が30.1%、**「これから取り組んでいく予定」**が12.4%

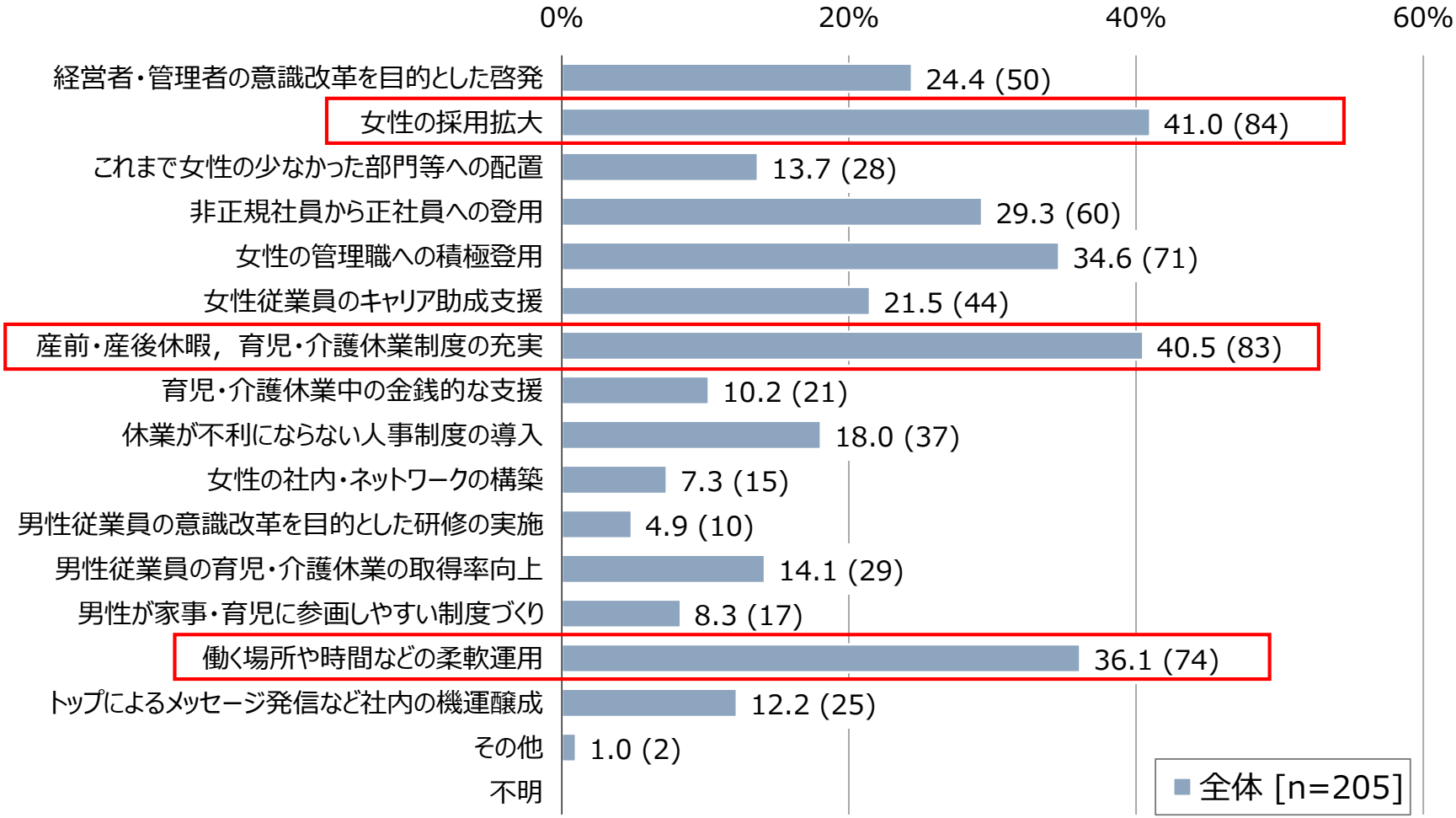
全体 [n=482]



令和6年度事業所アンケートから 【女性活躍の取組】

問 「女性活躍推進のために、貴事業所が取組んでいる、又は取り組めることは何ですか。［複数回答］（「取り組んでいる」、「これから取り組んでいく予定」と回答の事業所）

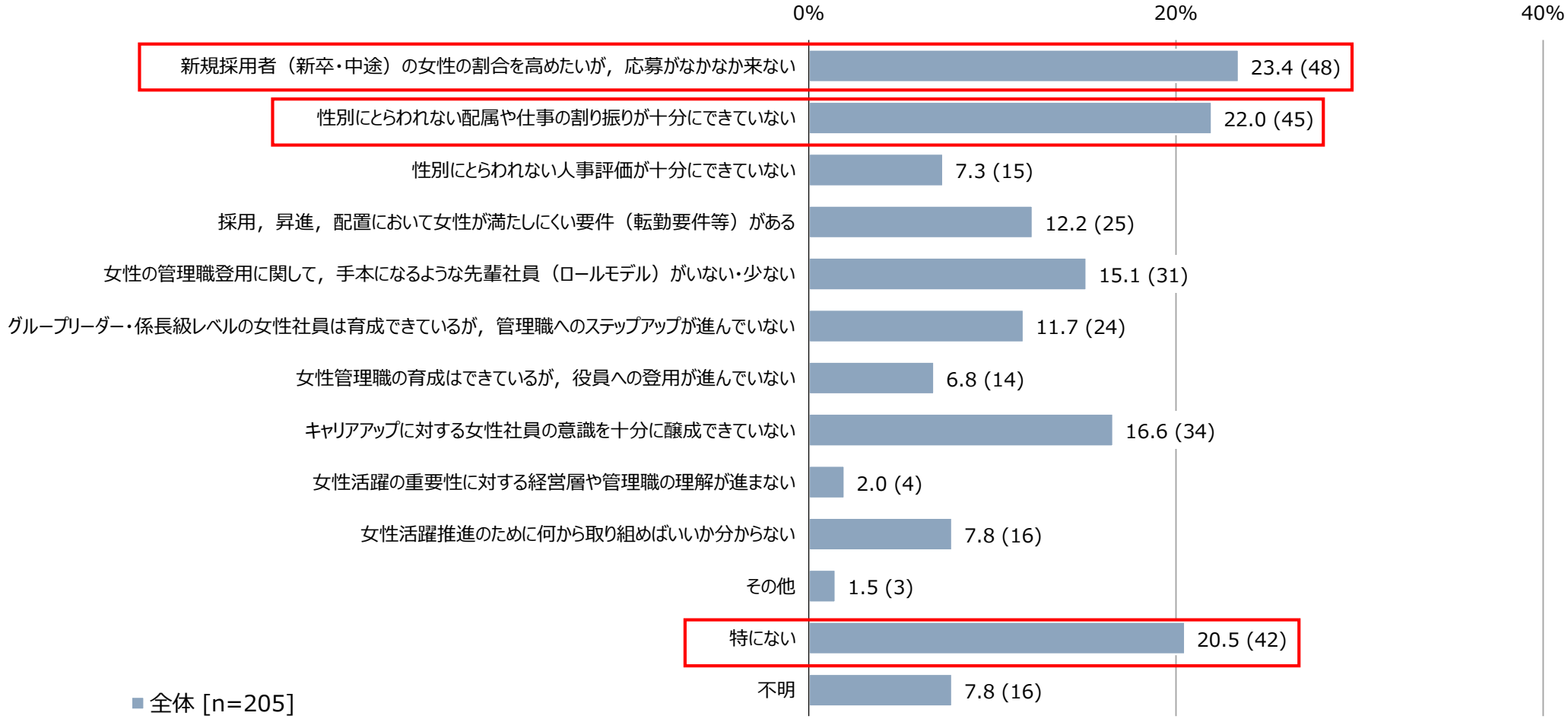
- **「女性の採用拡大」**が41.0%と最も多く、次いで**「産前・産後休暇、育児・介護休業制度の充実」**が40.5%、**「働く場所や時間などの柔軟運用」**が36.1%



令和6年度事業所アンケートから 【女性活躍の取組】

問 「女性活躍を推進するための取り組みを実施する(これから実施するものも含む)中で、感じている課題は何ですか。」[複数回答](「取り組んでいる」、「これから取り組んでいく予定」と回答の事業所)

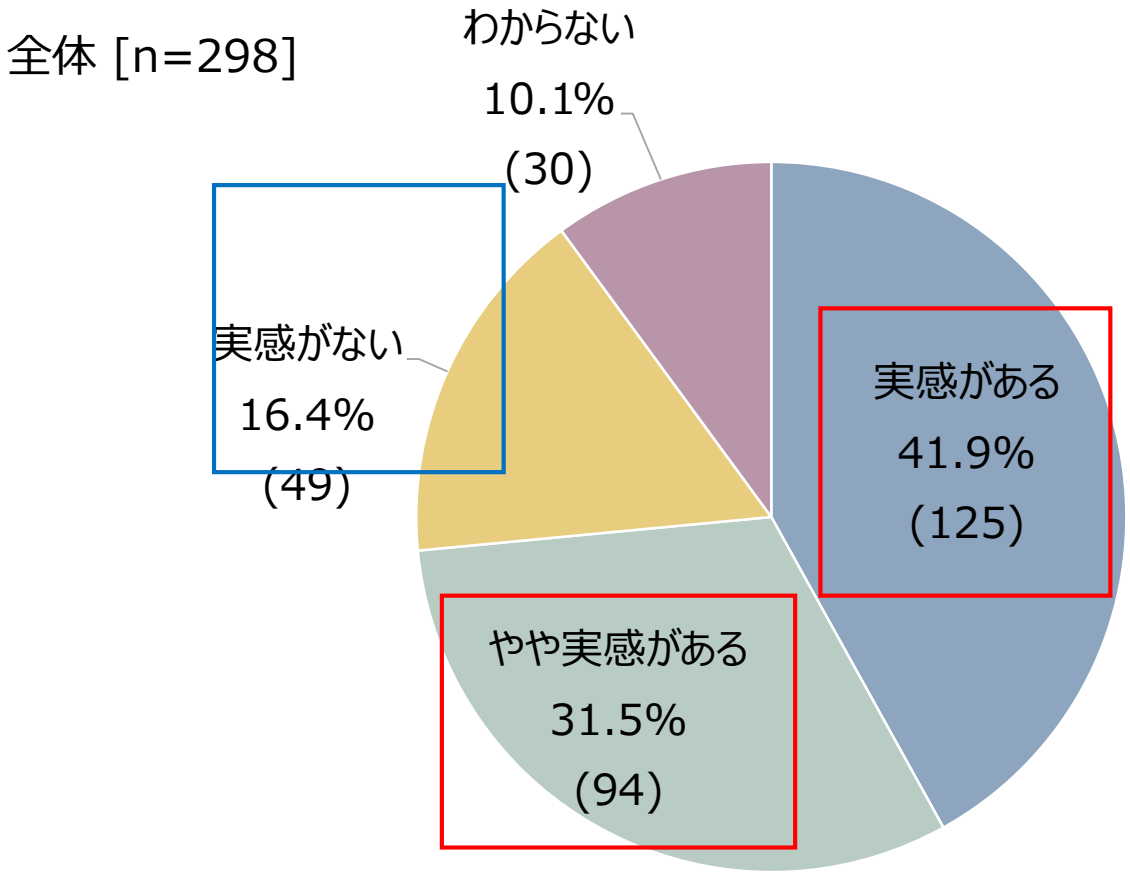
- **「新規採用者(新卒・中途)の女性の割合を高めたいが，応募がなかなか来ない」**が23.4%と最も多く、次いで**「性別にとらわれない配属や仕事の割り振りが十分にできていない」**が22.0%、**「キャリアアップに対する女性社員の意識を十分に醸成できていない」**が16.6%



令和6年度一般（18歳～65歳）アンケートから 【職場で女性が活躍できているか】

問 「あなたの職場では、女性が活躍できている実感がありますか？」

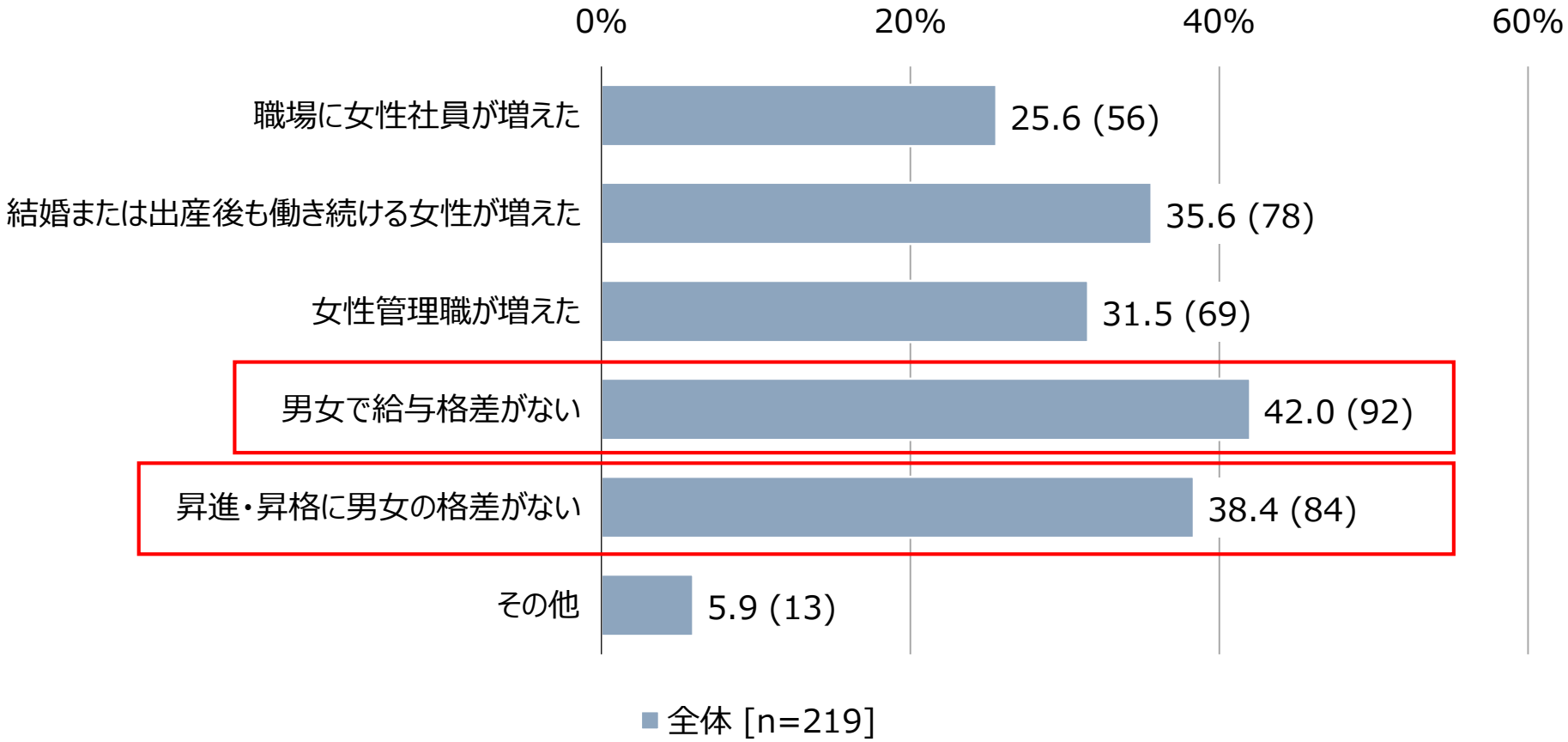
- 「実感がある」が41.9%と最も多く、次いで「やや実感がある」が31.5%、「実感がない」が16.4%



令和6年度一般（18歳～65歳）アンケートから 【職場で女性が活躍できている要因】

問 「どのような点で女性が活躍していると感じますか？」[複数回答]
（「実感がある」、「やや実感がある」と回答した方に質問）

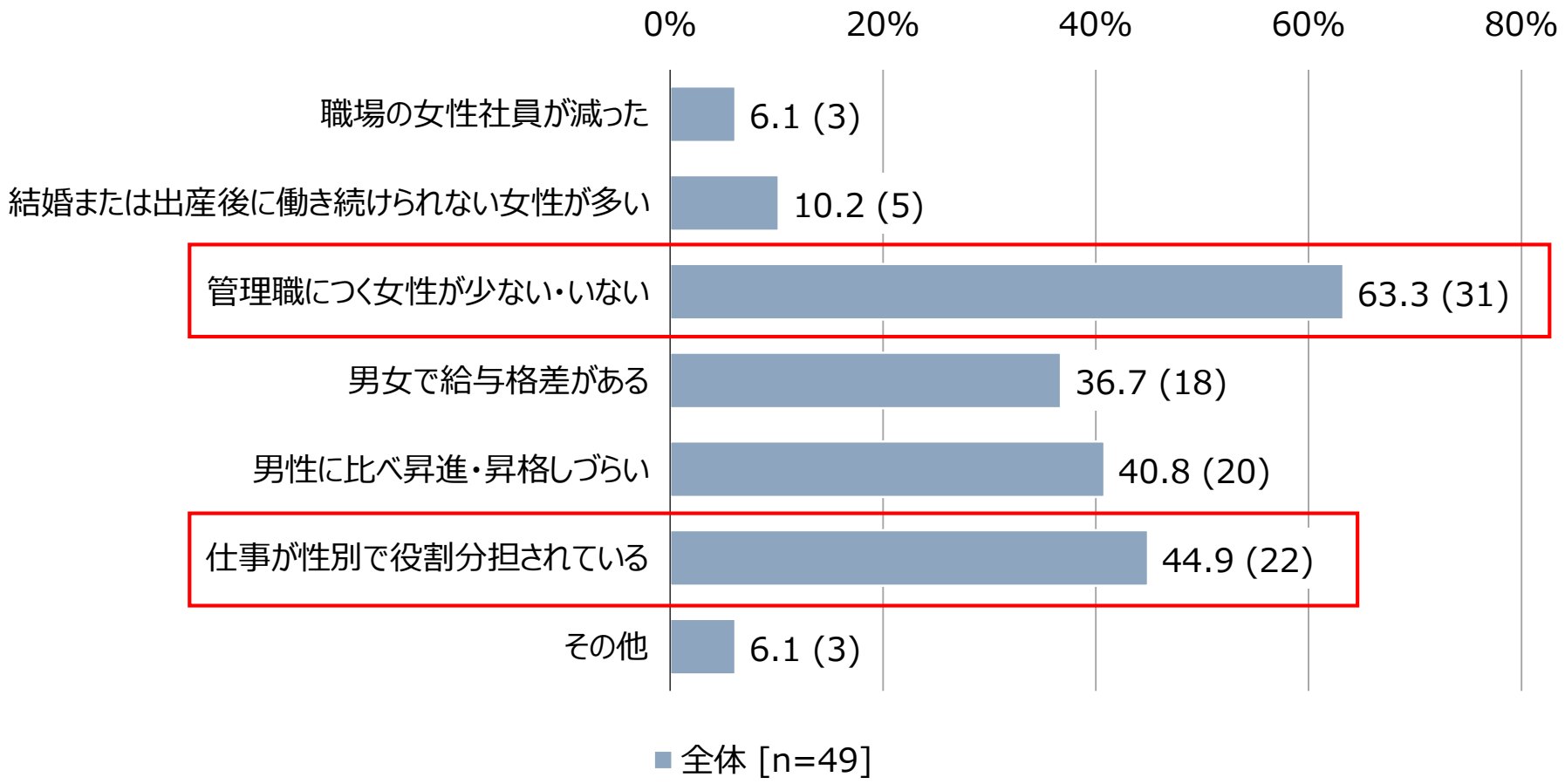
- 「男女で給与格差がない」が42.0%と最も多く、次いで「昇進・昇格に男女の格差がない」が38.4%、「結婚または出産後も働き続ける女性が増えた」が35.6%



令和6年度一般（18歳～65歳）アンケートから 【職場で女性が活躍できていない要因】

問 「どのような点で女性が活躍できていないと感じますか？」[複数回答]
（「実感がない」と回答した方に質問）

- 「管理職につく女性が少ない・いない」が63.3%と最も多く、次いで「仕事が性別で役割分担されている」が44.9%、「男性に比べ昇進・昇格しづらい」が40.8%

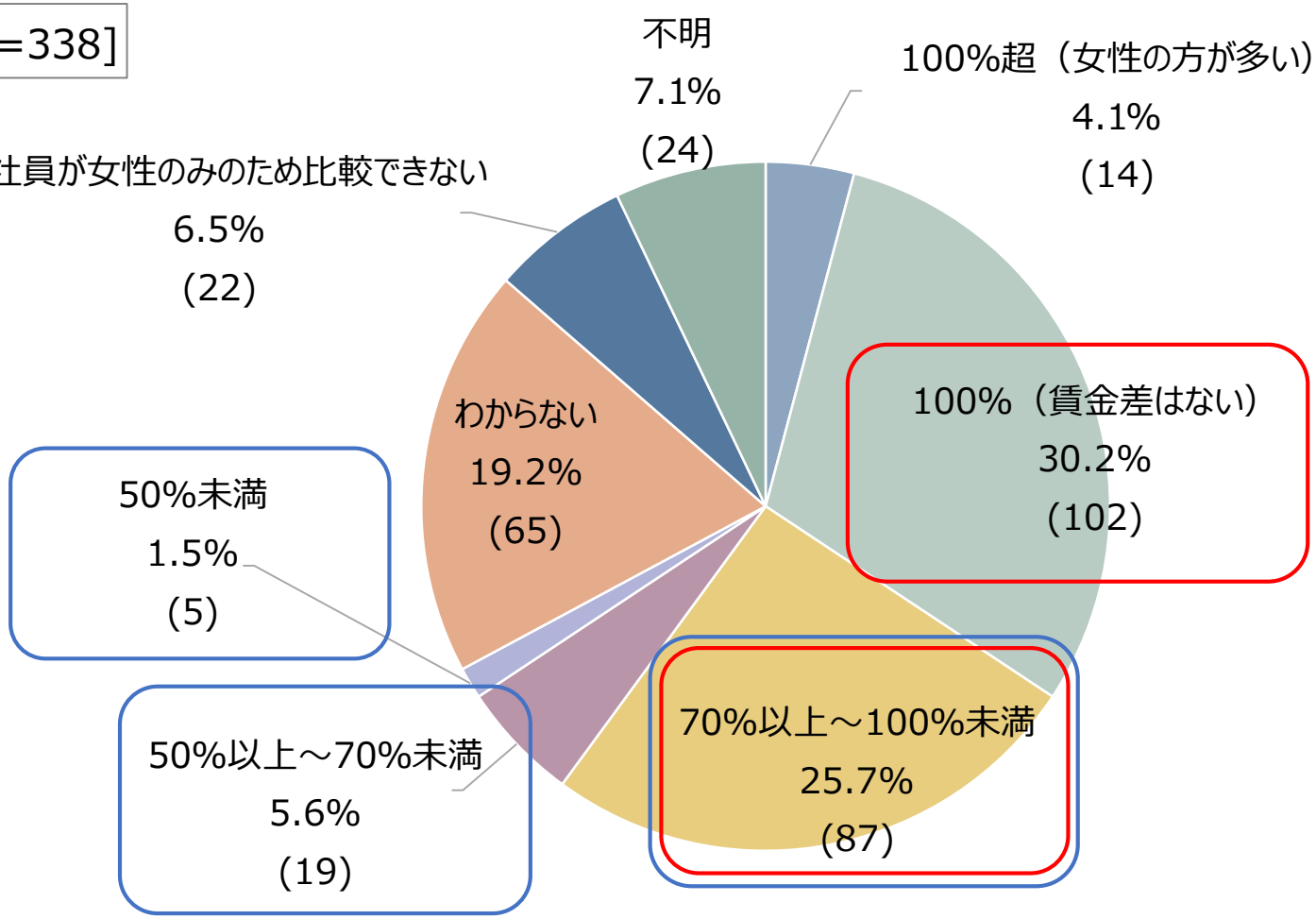


令和6年度事業所アンケートから 【男女の賃金差】

問 「貴事業所において、女性正社員の平均賃金を求めた場合、男性正社員の平均賃金の何パーセント程度になりますか。」

- 「100%(賃金差はない)」が30.2%と最も多く、次いで「70%以上～100%未満」が25.7%

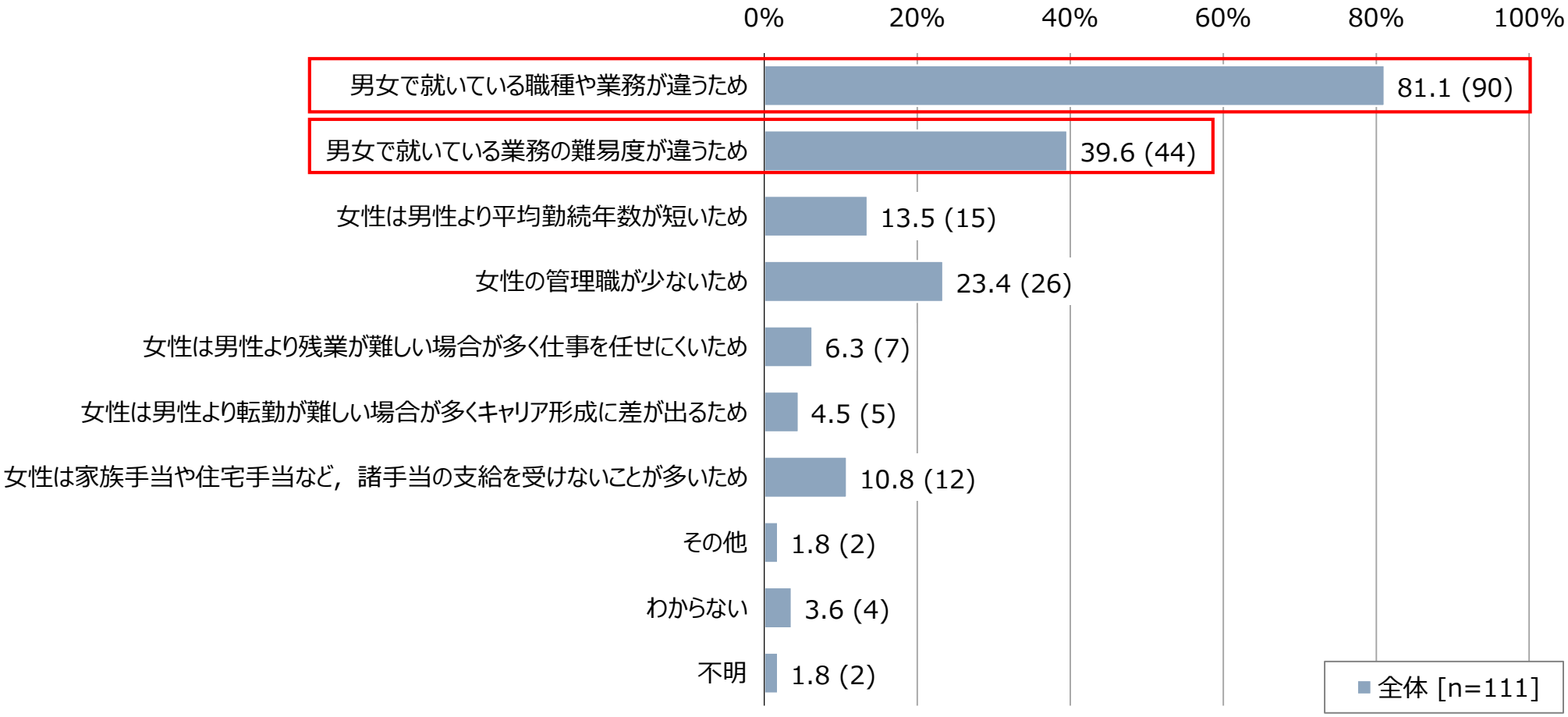
全体 [n=338]



令和6年度事業所アンケートから 【男女の賃金差】

問 「女性正社員の平均賃金が男性正社員の平均賃金よりも低い要因は何ですか。」
［複数回答］（「70%以上100%未満」、「50%以上70%未満」、「50%未満」と回答の事業所）

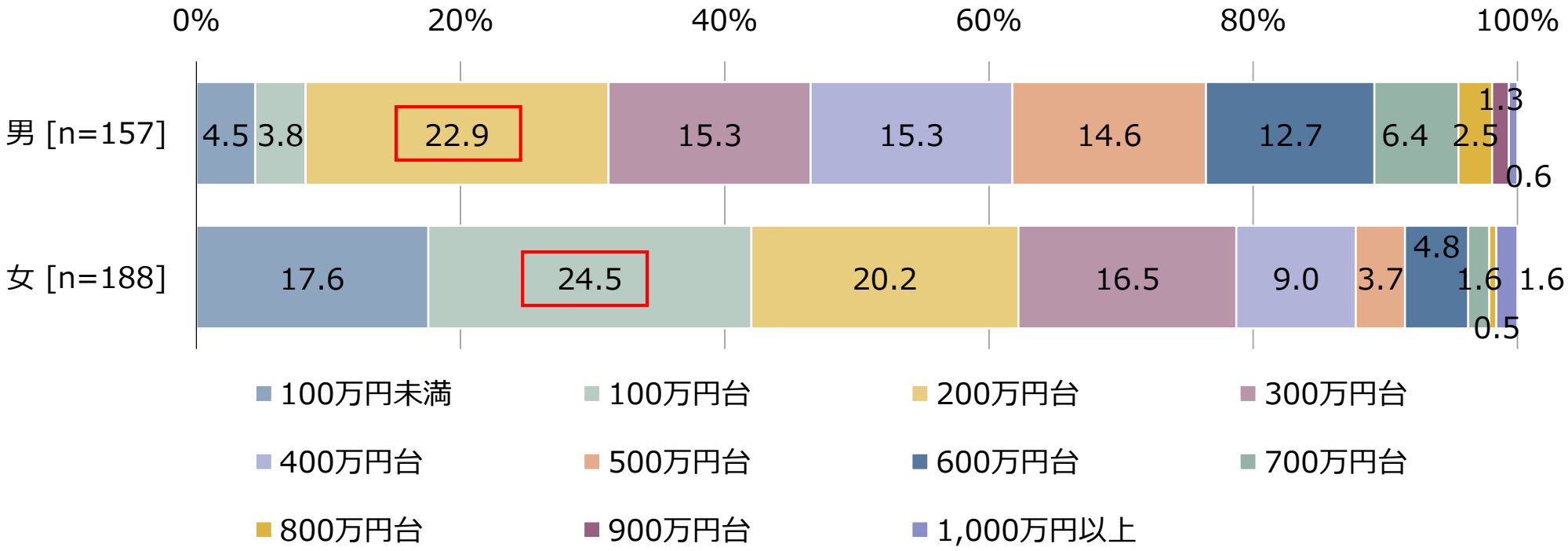
- 「男女で就いている職種や業務が違うため」が81.1%と最も多く，次いで「男女で就いている業務の難易度が違うため」が39.6%、「女性の管理職が少ないため」が23.4%



令和6年度一般（18歳～65歳）アンケートから 【個人年収】

問 「あなた個人の昨年（令和5年）の額面年収を教えてください。非定期的なアルバイト等の場合、昨年の年間合計額を教えてください。」

- 男性では「200万円台」が22.9%と最も多く、次いで「300万円台」「400万円台」が15.3%
- 女性では「100万円台」が24.5%と最も多く、次いで「200万円台」が20.2%,「100万円未満」が17.6%
- 男女差が大きいものをみると「500万円台」（10.9%差）は男性の方が多く、「100万円台」（20.6%差）、「100万円未満」（13.1%差）は女性の方が多くなっている

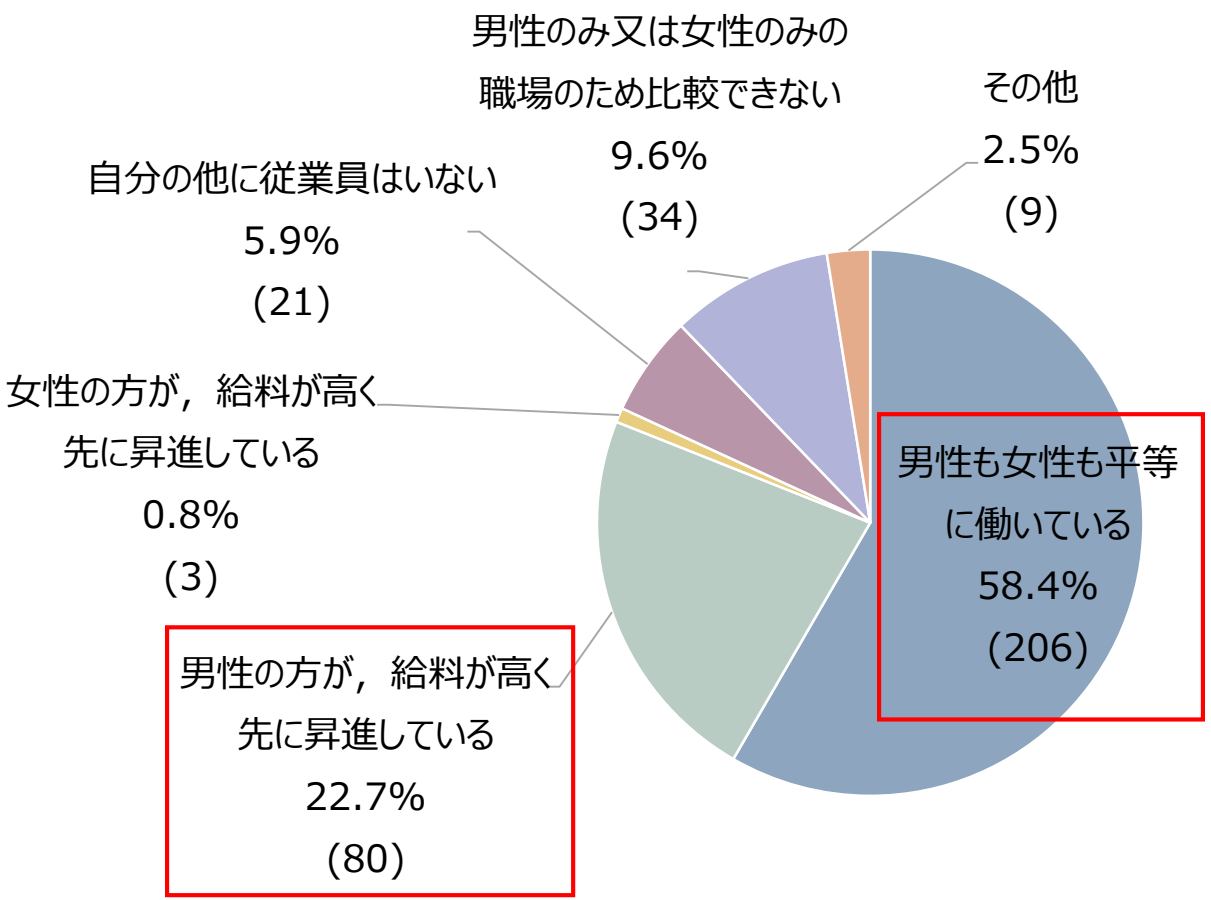


令和6年度一般（18歳～65歳）アンケートから 【職場での男女の働き方の差】

問 「あなたの職場では、男性と女性の働き方に差があると感じていますか？」

- 「男性も女性も平等に働いている」が58.4%と最も多く、次いで「男性の方が、給料が高く先に昇進している」が22.7%、「男性のみ又は女性のみの職場のため比較できない」が9.6%

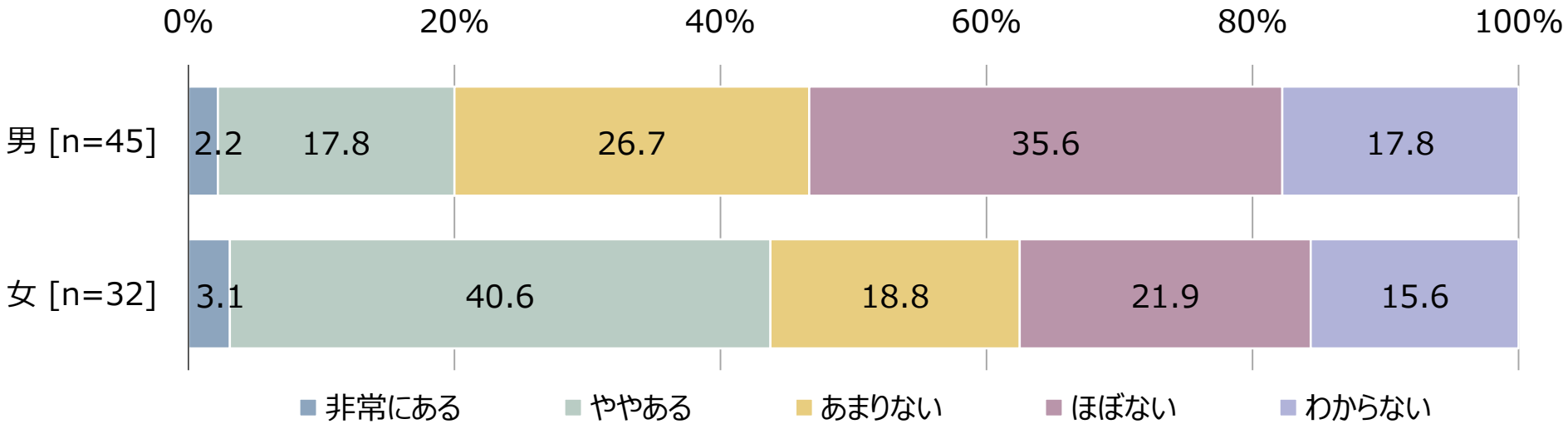
全体 [n=353]



令和6年度高校2年生アンケートから　【ジェンダーギャップ】

問「あなたは学校や家庭などにおいてジェンダーギャップ(男女格差)を感じることはありますか？」

- 男性では「ほぼない」と「あまりない」の合計は「非常にある」と「ややある」の合計よりも多く，女性では「非常にある」と「ややある」の合計は「ほぼない」と「あまりない」の合計とほぼ同じになっている。
- 「非常にある」と「ややある」の合計は，男性が20.0%，女性が43.8%であり，女性の方が多く，「ほぼない」と「あまりない」の合計は，男性が62.2%，女性が40.6%であり，男性の方が多くなっている。

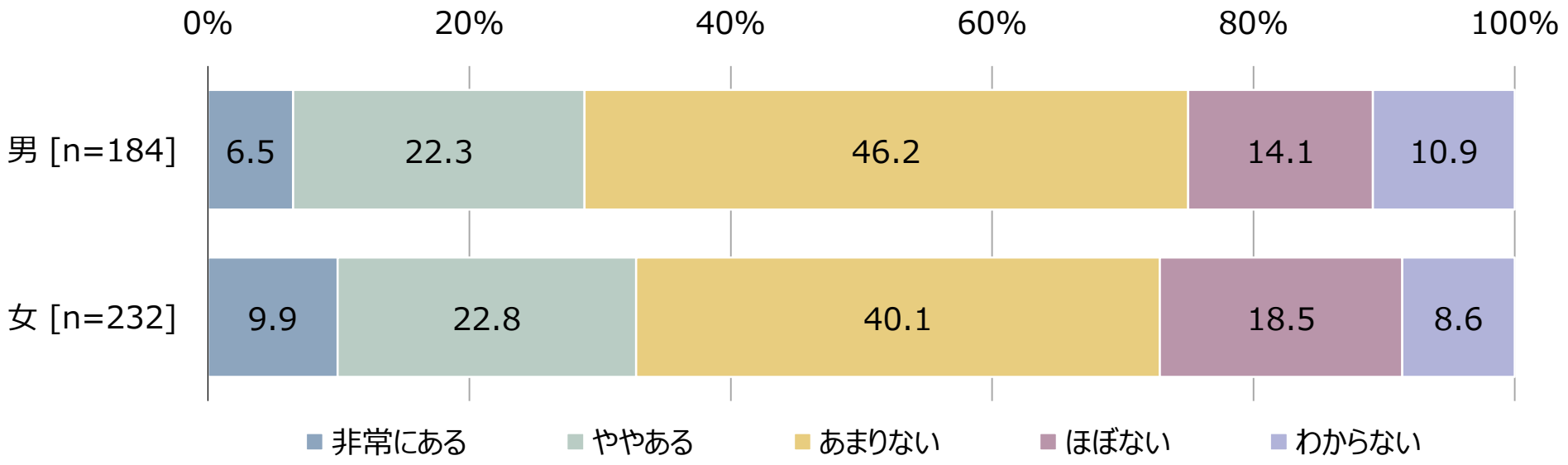


※「非常にある」、「ややある」と回答した方に、どのような時にジェンダーギャップを感じるかについてお聞きした回答を掲示しています。

令和6年度一般（18歳～65歳）アンケートから 【ジェンダーギャップについて】

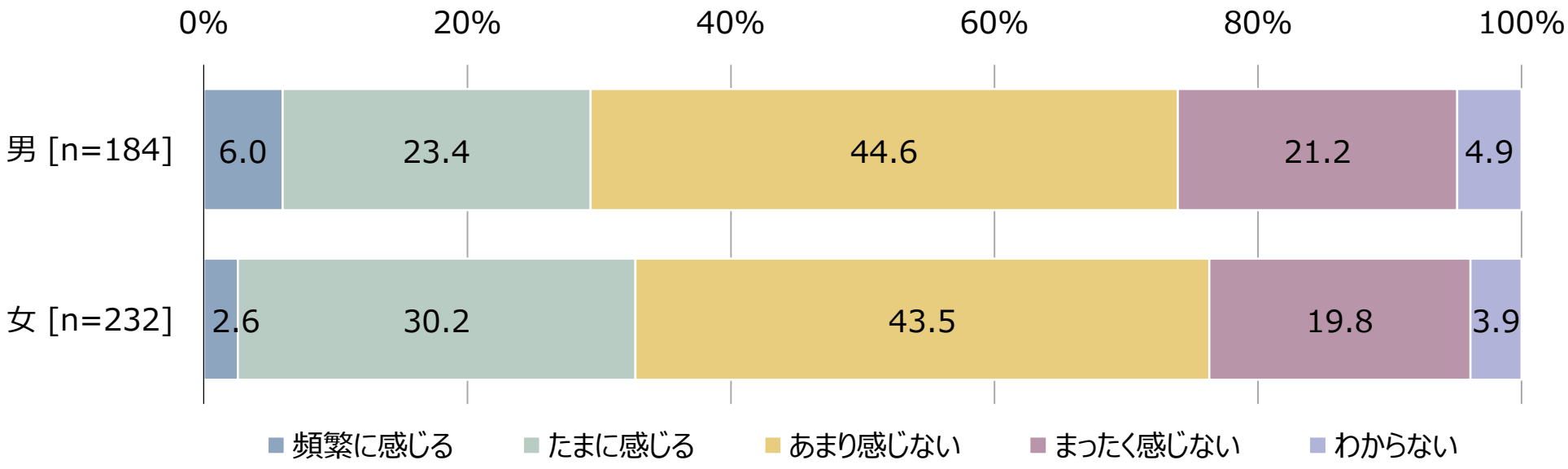
問 「あなたは学校や家庭などにおいてジェンダーギャップ（男女格差）を感じることはありますか？」

- 男女ともに「ほぼない」と「あまりない」の合計は「非常にある」と「ややある」の合計よりも多くなっている。
- 「非常にある」と「ややある」の合計は，男性が28.8%、女性が32.7%であり、ほぼ同じになっている。



※「非常にある」、「ややある」と回答した方に、どのような時にジェンダーギャップを感じるかについてお聞きした回答を掲示しています。

令和6年度一般（18歳～65歳）アンケートから 【性別による固定観念】

問 「あなたは「男性（女性）だから」、「女性（男性）らしさ」、という固定観念やプレッシャーにより生きづらいと感じることはありますか？」

- 男女ともに「まったく感じない」と「あまり感じない」の合計は「頻繁に感じる」と「たまに感じる」の合計よりも多くなっている。
- 「頻繁に感じる」と「たまに感じる」の合計は，男性が29.4%，女性が32.8%であり，ほぼ同じになっている。